

1



2



3

ス・ドホ | パーフェクト・ホーム

2012.11.23–2013.3.17

ス・ドホは薄い布を用いて建物を表現する「ファブリック・アーキテクチャー」シリーズにおいて、或る地点へと至る移動の際に持ち得る空間を表現してきた。1962年韓国に生まれ、ソウル国立大学卒業後にアメリカに移って絵画と彫刻を学び、自国の文化とマイノリティとして暮らす他国の文化間のせめぎ合いを作品に反映し、繊細で端正な質感と、時代の空気が持つ曖昧さや浮遊感を合わせ持つ作品は、特に評価が高い。

現在、ニューヨークとロンドンを拠点にして、世界各地を作品発表やプロジェクトのために移動し続けているス・ドホにとって、「家」について言及することは、自らのアイデンティティに関わる疑問の延長上にある。「空間をスーツケースに納めて運ぶ」という発想から始まった軽やかな作品は、光を通す半透明な薄い布で作られ

ている。ドホ自らの体験にまつわる建物とそのパーツであるドアノブ、洗面台、水道管などはすべて正確に採寸され、布地で作り変えられている。どれもス・ドホの個人的な記録と記憶の集積であるが、多くはピンク、緑、青、赤といった、シンプルな単色で作られているがために、一体誰の家なのか、個人を特定する何の痕跡も示さない無名性も獲得しているという、アンビバレントな様子がみてとれるのは興味深いことだ。

ドホにとっての家は定住のための家を指し示すだけでなく、自らの存在や記憶と密接に結び付いた形象である。韓国の両親と共に暮らした家をパラシュートに括りつけ、自身が留学して米国に暮らしたアパートに不時着させるなど、ポリエステル製の布の家は海を越えて漂流し、一時的に漂着する。それらはまぎれもなく世界中を移動し続けるドホと同じく移動する家であり、

仮設（インсталレーション）にして、またふたたびどこかに移動していくのである。この場合の移動とは、ドホの個人の事情に拠るだけでなく、現代におけるアイデンティティの問題や、帰属や再帰といった私たちが置かれている状況を照射する普遍性を獲得している点にも注目すべきである。

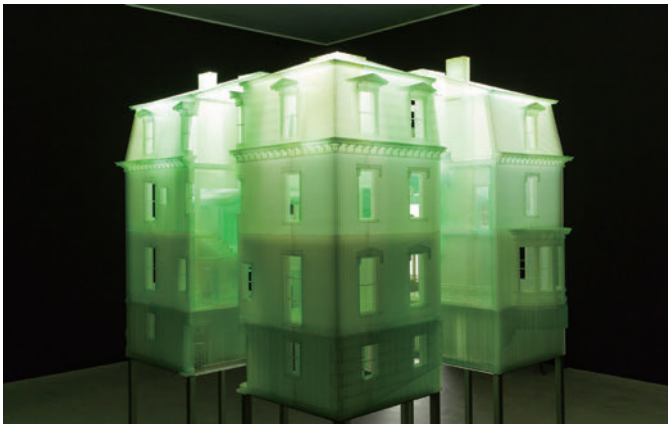
ドホの作品に現れる家を構成する数々のパーツ——多くは階段や廊下、門などは、内と外、あるいは公と私を分け隔てる境界を象るものである。内部と外部が相互浸透する壁や門や廊下といった空間的な仕切りは、たとえば《アメリカ合衆国ニューヨーク州10011 ニューヨーク市348西22番通り-アパートA、廊下と階段（金沢版）》という作品を例にとれば、自立して閉じられているかのようにも見える。しかし実際には、個人の家も電線や水道管といった他



4



5



6

者との共有や寄生によって相合浸透を可能にする。精巧に作られた電気スイッチやドアノブなどをさまざまな境界に位置する形象と位置づけて、なおかつ家をドホ自身と読み替えてみれば、家に言及している作品は、個人と集団、公と私の関係そのものを表すものと考えられる。また、これらの構成要素は移動にまつわる起点や終点、結節や分割といった建築空間の経験を示すものでもある。ドホの家は薄い布で空間的に仕切り分割して独立した領域を区画する。しかし外部との関係を結ぶことなく、いずれはふたたび畳まれ、変容しながら新しい空間へと解き放たれていく。

現代において「ホーム」という言葉に込められた幸福な感触や記憶の住処といった信頼性は失われつつある。が逆説的に安定した空間への思慕は、ますます強まり、家を持つこと、家

を取り戻すことに、大きな意味を重ね合わせている。「パーフェクト・ホーム」とはその実体も含めて「家」についての定義が揺らぐなかでの問いとして聞かねばならない。ドホの作品における家は、建築的記号への言及に留まらず、そこに住まう人々や家族や出自といったアイデンティティに関わる問いかけも含む。多様であるが制限された空間の旅の中であっても、「理想の家」とは何かをあらゆる次元で考える契機になるものだろう。

(黒澤浩美)

1. 展示室11：展示風景

《ソウルの家／ソウルの家／金沢の家》2002-2012年
絹、ステンレススチール 作家蔵
Seoul Home / Seoul Home / Kanazawa Home

2.3. 展示室6：展示風景

《アメリカ合衆国ニューヨーク州 10011 ニューヨーク市
348西22番通りーアパートA、廊下と階段（金沢版）》
2011-2012年
ポリエステル、ステンレス・スチール 作家蔵
348 West 22nd Street, New York, NY 10011, USA —
Apt. A, Corridors and Staircases (Kanazawa version)

4. 展示室14：展示風景

《墜落星 — 1/5スケール》2008-2011年
ミクスト・メディア リウム・サムスン美術館蔵
Fallen Star — 1/5th Scale

5. 展示室9：展示風景

《秘密の庭》（模型）2012年
ミクスト・メディア、トラック
Secret Garden

6. 展示室10：展示風景

《家のなかの家 — 1/11スケール — 原型》2009年
ステレオリトグラフィ
Home within Home — 1/11the Scale — Prototype

1-6. ©Do Ho Suh

1-4.6. Photo: Nils Claus

5. Photo: Jeon, Taegsu